

「総理と呼ばないで」は、田村正和さん演じる支持率低迷に悩むダメ総理の話です。

このドラマでは主要人物の名前は一切出てきません。すべて職名で呼ばれます。

田村正和＝総理、西村まさ彦＝首席秘書官、筒井道隆＝官房長官、鶴田真由＝メイド、鈴木保奈美＝総理夫人といった所です。

若干ロケもありますが、基本的には首相官邸の中で物語が進められます。この辺りは前作王様のレストランの手法を模したようです。

本文に登場した内藤剛＝冒険家の話はこのような内容です。

本エピソード冒頭は首相官邸のメンバーのゴルフコンペが開催される所から開始されます。

ゴルフで良い成績を取めた総理は周囲の人達から優勝間違いなしともはやされ上機嫌。

しかし実際には政務副長官がその成績を上回ってしまいます。

政務副長官が自身の成績を上回った事を知った総理は、自らのスコアを改ざんして優勝します。政務副長官はじめ周囲も不正に気が付きますが相手が総理な事を忖度して黙認します。

しかしこの不正と一緒にラウンドしたメイドが気付き、官房長官に報告。

官房長官とメイドで成績が違う事を総理に上申します。

総理は改ざんを否定するものの、勘違いであったと話し優勝を撤回する事を約束します。

しかし二人にそうは言ったものの、今更後に引けない総理は首席秘書官を呼び出し、何とか優勝出来るように指示します。

件の冒険家に国民栄誉賞受賞を進言し「黒い噂（漁船に引っ張って貰った）があるので慎重にした方が良い」と言う周囲の意見を押し切り進めた結果、恥をかかされた首席秘書官は面目躍如のため一計を案じます。それはあるコースで総理が7打叩いた所の7を1にする事でスコアの辻褄をあわせませす。

新たにホールインワン賞まで獲得する総理に不快感を露わにする官房長官とメイド、その目線に罪悪感と気まずさを覚える総理。

執務室に戻ると例の冒険家がソファに座っています。

すぐに警備を呼ぼうとする総理に「少しだけここにおらせてほしい」と懇願する冒険家。

漁船に引っ張って貰った事が週刊誌に掲載された事でマスコミに追われ、逃げ場がない事を告げます。

そして本文中のやり取りになります。

冒険家の話を聞いた総理は今の自分の置かれている（国民から総スカンを食らっている）状況と重ね感銘を受けます。

硬い握手の後、国民の事を「勝手な奴らじゃないか」と冒険家と打ち解けます。

「しかしね、こうも思うんだ。国民は勝手に期待し勝手に失望する。実にいい気なもんだ。

しかし我々にはその期待に応える義務がある。それが例え見当違いの期待だとしてもだ。それが我々選ばれた者の使命なんだ。そんな風に思う。そういった意味で私も君も失格なんだ。

しかしともかく君は良くやった。それは私が保証するからいいじゃないか。」
そして自身が不正をして貰ったゴルフの優勝トロフィーを「総理大臣賞だ」と言って渡そうとしますが、ふとトロフィーを渡すのを思いとどまり、「やっぱりこっちにしてくれ」と横に置いてあった副賞の CD ラジカセを渡そうとします。
初めは「俺はこれから旅に出るんだ」と荷物になる CD ラジカセの受け取りを断ろうとしますが、総理の熱意に押されてありがたく受け取ります。
冒険家退室後、総理は首席秘書官を呼び出し、「嘘はイカンよ、嘘は」と話し、今日の参加者全員に自分が不正した事を連絡する事、優勝トロフィーを政務副長官に渡す事を指示するのでした。

このエピソードでは指導者の苦悩、また持ち上げたり、引き落としたりする日本という国の国民性や危険性を説いたと言えます。

※いつもの事ながら見直した訳ではないので、文中のセリフは正確ではありません。